

おらほの病院

114

「あたたかな医療をめざして」

諏訪中央病院 リレーコラム

日本はこれまで幾度も大きな災害を経験してきました。とりわけ2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの命が失われ、日常の暮らしが突然奪われました。災害は決して特別な出来事ではなく、私たちの生活のすぐそばにあります。県内でも地震や豪雨災害を何度か経験しているものの、今後も冬季の停電など、決して他人事ではない状況が起こり得ます。自然とともに生きることの意味を、いのちの重さを知ることの意義を、そなえる意識を持つこととの大切さを、あらためて共に考える必要があります。

諏訪中央病院

まつ お まさる

臨床工学技士 松尾 昌



松尾 昌

(まつお・まさる)

臨床工学技士。平成27年諏訪中央病院入職。AHA・BLSインストラクター、AMAT隊員、JHAT隊員。災害支援・平成26年御嶽山噴火、令和元年東日本台風、令和6年能登半島地震

日常の中にある防災 命を守る在宅酸素療法への備え

「在宅酸素療法」を必要とする方も少なくないです。

在宅酸素療法では、電気を使って機械を動かし高濃度の酸素を供給しています。酸素が必要となる場面や量は患者さんごとに異なりますが、安静時や移動時、入浴時、就寝時、トイレ時など、24時間継続して必要となる場面もあります。一方で、災害や停電が起きると装置が使用できなくなり、酸素供給が途絶える恐れがあります。酸素は目には見えませんが、患者さんにとっては命を支える大切な存在であり、口傾からの備えが重要となります。

①緊急時には、まず電気で動く装置(例…据え置き型酸素濃縮装置)から、バッテリー式の携帯型酸素濃縮装置や酸素ボンベへ切り替える必要があります。そのため、バッテリー式の機器は常に使用可能な状態にし、酸素ボンベもすぐ使える場所に準備しておく事が大切です。また、停電が長引く場合も想定し、医療機関などの連絡先の確認も必要です。



据え置き型酸素濃縮装置



石巻市立大川小学校を襲った巨大津波。校舎と体育館をつなぐ渡り廊下

②災害時には不安から呼吸が乱れやすくなるため、呼吸状態を安定させるため安静を保つことも重要です。

③必要な酸素の量が多い患者さん(例…安静時に5L/minを超える酸素を使用している)ほど、装置の種類によっては酸素の消費が増えることもあるため、早めに医療機関へ行きましょう。そのため、普段から自分に必要な酸素量を把握しておきましょう。

災害時には、医療機関以外に医療機器を取り扱う業者も迅速に災害支援活動に入ります。ただし、医療機器業者も被災したり、道路状況の悪化や渋滞等によって対応が遅れる可能性もあります。まずは患者さん自身の「自助」、そして家族や地域で支え合う「共助」が欠かせません。

災害はいつ起こるかわかりません。過去の災害を忘れず、命を守る備えを日常の中で少しずつ進めていくことが求められます。

次回は4月5日掲載予定
(題字は鎌田實名誉院長)